

令和4年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

金沢市立森本中学校	重点課題推進校	I C Tの活用
-----------	---------	----------

1 研究の重点と具体的な取組

重点1 I C Tを効果的に利活用した授業実践

- ・ I C Tの有効度を論じた村井（2020）の分類（有効、有用、代用）にもとづいて、授業実践を評価しながら改善を進める。

重点2 I C Tの活用技能を高める研修システムと学習プログラムの確立

- ・ 教員と生徒の I C T活用の実態を見ながら、どのようなプログラムで I C T活用の技能を高めていけばよいかを実践・検証していく。

2 取組の検証

教員アンケートでは「大型提示装置や端末の利用を学習活動に組み入れることができた」と96%が肯定的回答をしており、日常的に全教科において I C Tが活用されている。

また、令和4年度全国学力・学習状況調査、質問紙調査の I C T活用に関連する設問の生徒アンケートを3年生対象として12月にもとり、4月の段階と比較した。

「自分で調べる場面で活用」週3回以上49.6%（全国37.2%）→87.4%

「意見を交換する場面で活用」週3回以上36.2%（全国17.8%）→68.5%、

「考えをまとめ、発表する場面で活用」週3回以上33.4%（全国15.0%）→59.0%
調べるという基本的な活用方法だけではなく、意見交換やまとめ、発表の場面でも I C Tが活用されている。

3 成果と課題

生徒も教師も1人1台端末に慣れ、活用スキルが向上した。多くの生徒はルールを守り、自由に端末を利用している。また、校内研修を通し、教員が使えるアプリも増えてきており、ほとんどの授業で端末を用いている。

教科だけではなく、クラスCM制作やオンライン集会、終礼時の当番の1分間スピーチ、職場体験ライブ中継など特別活動や総合的な学習の時間にも I C Tを活用している。クラスCMは動画を用いたりするなど、昨年度よりレベルアップしたものになった。また、スライドを用いた1分間スピーチは生徒の要望から始まったものであり、自分の意見を発表する全校向上プランとして取り組んでいる。

年度当初は、静かに端末に打ち込む場面が多かったため、全体の場で声を出して発表させることに力を入れてきた。指示棒を用いて、大型モニターを指して聞き手を意識して発表させたり、生徒の発言をつなげていける発問を工夫したりするなど行ってきた。授業だけではなく、全校向上プランの成果もあり、堂々と発表できる生徒は増えてきた。

端末を用いて、生徒は自分の意見を表現でき、他の意見を知ることもできている。しかし、その意見を自分たちの対話で深めていくことが不十分なので、思考を深める工夫がさらに必要である。